

76

京都大学貴重資料デジタルアーカイブ —画像データのオープンアクセスと流通促進— <https://rmda.kulib.kyoto-u.ac.jp/>



なぜ今、画像のオープンアクセス？

学術情報の流通・発信は、研究者間における研究成果の共有、社会に対する研究成果の発信・普及、研究成果を活用する教育活動の実施等の基盤となるものです。学術情報をオープンアクセスにすることにより、学術情報の流通・発信を促進・加速しようという動きが高まっています。

京都大学は、オープンアクセスを推進するため、次のような取り組みを行っています。

京都大学オープンアクセス方針（2015年採択）

- 教員は学術情報リポジトリKURENAIに学術論文を公開することが義務付けられました。

京都大学オープンアクセス推進事業（2016-）

- オープンアクセス方針に沿って、学術論文のオープンアクセスを推進しています。
- 貴重資料を電子化してウェブ上で公開し、人文科学分野の研究者を支援しています。

オープンアクセス推進事業の一環として、2017年9月に
京都大学貴重資料デジタルアーカイブを立ち上げました。

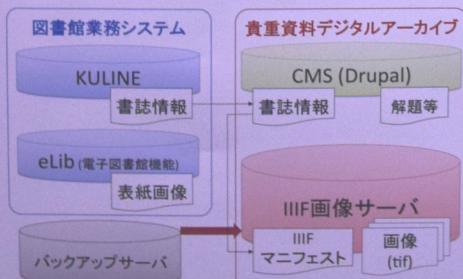
システム構成

デジタルアーカイブは2つの主要コンポーネントで構成され、図書館システムとともにサービスを提供しています。

コンテンツマネジメントシステム（CMS）: Drupalで構築し、貴重資料の書誌情報や解説等のメタデータを格納しています。データの管理、検索を可能にしています。

IIIF画像サーバ：画像（TIFF形式）とIIIFマニフェストが格納されています。画像はIIIF画像APIを、IIIFマニフェストはIIIFプレゼンテーションAPIを介して、CMSへ送信されます。

KULINE：京都大学図書館機構の蔵書検索システムで、貴重資料を含む図書や雑誌の書誌情報を格納しています。貴重資料の検索は、デジタルアーカイブの検索機能だけでなく、KULINEからも検索することができます。



ユーザーインターフェース



書誌情報だけでなく
翻刻テキストも含め
全文検索します

ピックアップでは
国宝や重要文化財等
よく利用される資料を力
テゴリ別に
集めています

全ての公開資料を
文庫別に表示し、
各文庫のページでは
文庫の内容や由来を
解説しています

ビューアーは
Universal Viewerと
Miradorを選べます

今後の取り組み

1. アクセスログ分析による画像利用のメトリック開発及び システム改善

IIIF画像APIコールは、ユーザーが画像を拡大縮小するたびに発生するため、その回数をそのまま画像の利用回数とすることはできません。したがって、実際の利用動向とIIIF画像APIコールの関係を分析し、新たなメトリックを開発する必要があります。また、利用者が操作に迷うポイント等を見つけ、システムの改善につなげます。

2. 位置情報を持つアノテーションの付与

IIIFの機能を活かし、各画像に対する翻刻テキストやその翻訳を、位置情報を持つアノテーションとして表示する取り組みを行います。翻刻テキスト等が作成されている画像はまだごくわずかですが、今後貴重資料画像の公開を進めることで資料研究が促進され、より多くの情報が蓄積・発信されることを期待しています。

3. 国際流通の促進につながるメタデータの充実

ローマ字・英語タイトルを追加する等、メタデータの充実に努め、非日本語圏からの利用も促進します。

4. 画像二次利用規則の改正

規則改正等により画像を二次利用しやすい環境を整え、学術情報流通の促進に努めます。

5. 他機関との共同サイトの構築

IIIF対応システムで公開されている画像は、システムの垣根を越えてあたかもひとつのアーカイブサイトであるかのように閲覧することができます。この利点を活かし、他機関と協力して資料の様々な見せ方を試み、新しい資料価値の発見につなげます。